

# ポリシーブック 2014

徳島県農協青壮年組織協議会



## J A 青年組織綱領

我々 J A 青年組織は、日本農業の担い手として J A をよりどころに地域農業の振興を図り、J A 運動の先駆者として実践する自主的な組織である。

さらに、世界的視野から時代を的確に捉え、誇り高き青年の情熱と協同の力をもって、国民と豊かな食と環境の共有をめざすものである。

このため、J A 青年組織の責務として、社会的・政治的自覚を高め、全国盟友の英知と行動力を結集し、次のことに取り組む。

1. われらは、農業を通じて環境・文化・教育の活動を行い、地域社会に貢献する。

J A 青年組織は、農業の担い手として地域農業の振興を図るとともに、農業を通じて地域社会において環境・文化・教育の活動を行い、地域に根ざした社会貢献に取り組む。

1. われらは、国民との相互理解を図り、食と農の価値を高める責任ある政策提言を行う。

人間の「いのちと暮らし」の源である食と農の持つ価値を高め、実効性のある運動の展開を通じて、農業者の視点と生活者の視点を合わせ持った責任ある政策提言を行う。

1. われらは、自らが J A の事業運営に積極的に参画し、J A 運動の先頭に立つ。

時代を捉え、将来を見据えた J A の発展のため、自らの組織である J A の事業運営に主体的に参加するとともに、青年農業者の立場から常に新しい J A 運動を探求し、実践する。

1. われらは、多くの出会いから生まれる新たな可能性を原動力に、自己を高める。

J A 青年組織のネットワークを通じて営農技術の向上を進めるとともに、仲間との交流によって自らの新たな可能性を発見する場をつくり、相互研鑽を図る。

1. われらは、組織活動の実践により盟友の結束力を高め、あすの担い手を育成する。

J A 青年組織の活動に参加することによって、個人では得られない達成感や感動を多くの盟友が実感できる機会をつくり、このような価値を次代に継承する人材を育成する。

(注釈) 本綱領は、J A 全青協設立の経過を踏まえて「鬼怒川 5 原則」「全国青年統一綱領」の理念を受け継ぎ、創立 50 周年を契機に現代的な表現に改めるとともに、今後目指すべき J A 青年組織の方向性を新たに盛り込んだものである(平成 17 年 3 月 10 日制定)。

## 後継者・新規就農者不足

### 課題

#### ○後継者・新規就農者に対する支援体制

### 解決策

#### 〈個人・J A青年部としての取り組み〉

- 青壮年部の拡充・強化
- 青壮年部と新規就農者の交流の場を設ける

#### 〈J Aの取り組み〉

- 行政と連携し、青年等就農計画制度の活用、またはJ Aが新規就農者を受け入れ、独立できるまで農業を学べるような体制を整備する

#### 〈行政に提案・要望すること〉

- 農用地利用配分計画等を活用し、耕作放棄地等を把握・管理した上で貸し手と借り手の要望をしっかりと伝え、情報を共有する。

## 近年の農業の景気低迷について

### 課題

○農業で利益を上げるには

### 解決策

〈個人・JA青年部としての取り組み〉

- 情報の共有、勉強会で知識と意見の交換を図る。
- 生産にかかるコスト・労力を消費者に伝える。

〈JAの取り組み〉

- 市場や消費者のニーズに合う販売スタイルの確立

〈行政に提案・要望すること〉

- 産地間競争を緩和し、徳島県産農産物のPRをお願いする。

## 近年の農業の景気低迷について

### 課題

○米価の下落についての対応

### 解決策

〈個人・J A青年部としての取り組み〉

- 米を裏作と考えた上での対策を考える。

〈J Aの取り組み〉

- 裏作に適した品種などの検討。
- 高級米と30kgで3,000円程度の安い米との二極化となった場合の対策を考える。

〈行政に提案・要望すること〉

- 米の政策に対して米農家が生きていけるような一貫した政策を考えてほしい。

# 農薬の統一について

## 課題

- いろいろな作物により農薬の登録あるものを使うようになっている。そのために農薬の種類が多く農薬の管理に苦勞する。
- 使用期限が気になり農薬の大量購入ができないため割高になっている。

## 解決策

### 〈個人・JA青年部としての取り組み〉

- 農薬の選定 農薬についての勉強会を行い農薬についての知識の習得
- 安心、安全な野菜作りめざし 市場の開拓

### 〈JAの取り組み〉

- 農薬の情報提供 新しい農薬のサンプルの提供
- 農薬の登録を増やすために行政への働きかけ
- 製薬会社に新規農薬の登録の種類を多くするように働きかける。

### 〈行政に提案・要望すること〉

- 農薬の登録をできるだけスムーズに行ってもらうようにする。
- 登録料を安くしていろいろな農薬に登録をしやすいしてほしい。

## 燃料の高騰について

### 課題

○燃料の高騰により生産経費が上がり、農産物の再生産が難しくなっている

### 解決策

〈個人・JA青年部としての取り組み〉

- ビニールハウスの保温資材、加湿器の省エネ装置等やり残したことはないか確認し、あればすぐにとりつける。

〈JAの取り組み〉

- さらに効率のよい保温資材や省エネ装置、また省エネ方法などの情報の収集、提供。

〈行政に提案・要望すること〉

- 現存するセーフティネットなどの燃油高騰対策事業を数年で終わらせるのではなく状況が変わるまで続けること。